

議長（竹島ヨリ子君） ただいまの出席議員数は８人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

７番 嶋田富士夫君。

７番（嶋田富士夫君） 私は、きょう、教育長に２点質問いたします。

教育長におかれましては、ことしより始まる小学校の改修工事もあり、何かと苦労されることが多いとは思いますが、頑張ってもらいたいものだと思います。

それでは、質問に入ります。

私たち子どものころは、農業用水の水門や川の深みでしか夏に泳ぐ場所がなく、今の小学校の観察池も私や平野監査委員が中学校を卒業した年にプールとしてつくられたものであり、中学生としては入れず、何か損をしたような思いをした記憶があります。今は草が生い茂り、外部からは放置状態に見えます。村の真ん中にある施設とすればいかなものかと思い、学校に利用状況を確認したところ、メダカが生息しているので、時々生徒がそれを観察しているとの答えでした。利用のあるなしに関係なく、わずかとはいえ、電気料の支払いもあり、学童が小生物や植物を観察したり、肌で触れて、観察意欲の向上や自然を素直に受け入れる人間性豊かな子どもに育てるために、ビオトープを兼ねた観察池、また防火用水の池としてつくり変えられたものだと思っています。

ことしから校舎の改修も始まり、あわせて観察池の存在が子どもに大きな存在価値のあるものだと思うような利用方法もぜひ検討してもらいたいと思います。

２点目です。

舟橋中学校の生徒のアンケートで、「舟橋村では歴史を感じられるものがない」というような答えがあったように記憶していたので、教頭先生に聞いたところ、卒業する生徒が「村には伝統芸能がない」と言ったこともあり、在校生にばんどり太鼓を習わせたことがあるそうです。

近年、村に移住され舟橋村民になった方も多く、村の歴史の認識は低いものになっているのではないのでしょうか。

平成１２年、道路建設の際の仏生寺城の一部発掘やオレンジパークのワンド部の発掘で、無量光仏の存在など、村内ほとんどで埋文が見られ、無量寺や天神堂古墳など、歴史的にも価値のあるものが多くあります。また、安政の土石流被害の折には、私の部落では、立山町の浦田の高台に避難したと聞いています。その流れ込んだ火山灰がトンビ泥と言われ、農地としてはあまりよいものではないと言われます。

昭和の立山町の合併話では、村を二分して賛否を争い揺れ動いたもので、同級生でも4、5人が雄山中学に行きました。舟橋村の発展の基礎になっている舟橋駅の設置場所にも先人のいろいろな苦勞があったそうです。これらいろいろな歴史は、村が古代より肥沃な開けた土地だったことを証明していますし、それは木の年輪のように、心にたくさんの歴史のある村の誇れる年輪でもあると思います。

今合併をせずに独立独歩の舟橋村があるのは、それらの歴史をつくってくれた先人の努力の貢献が大きいと思います。豊かな歴史を持った舟橋村に育った、住んでよかったという認識を持った村民が増えることは、村がモットーとされている「協働の舟橋村」への推進の一助になるものと私は思っています。

先生は村の歴史に精通されて、いろいろと周知活動をされておられますが、この誇れる舟橋村の歴史を今後どのように伝え残すのが最善か、お尋ねいたします。

質問を終わります。

議長（竹島ユリ子君） 教育長 塩原 勝君。

教育長（塩原 勝君） 嶋田議員の質問にお答えしたいと思います。

先ほど言われましたように、役場の前の小学校のグラウンドの端っこのほうに、昭和28年か29年にできたプールがあったわけではありますが、この中にも使われた方がたくさんおられると思いますけれども、それが新しいプールができて、無用の長物になったということで、恐らくその当時ではちょっと埋め立てて、自然の池、そして観察等に子どもたちが利用すればいいということで、現在に至ったのではないかというふうに思います。

日ごろ何となくしか見ていなかったのが、じっくり見てきました。中は砂利が敷いてあります。そして徐々に深くなって、深いところでは50センチほどになります。それで、急に50センチのプールに子どもが落ちたとか、あるいはすぐ深くなるようなそういう淵で落ちるといようなものではなく、徐々に深くなっていくので、子どもたちが簡単に中へどんどんどん深いところへ入っていくということはないだろうとは思いますが、ご指摘のように、やはり美観あるいは安全ということで、もう一度点検しなければいけないなど。

ただ、この舟橋村はどんどん開発されてきておりますが、まだまだ自然豊かで、そういった水中の小動物等を見るとか、その他の自然観察等に事欠くような村ではないので、小学校の校長とも少し話ししまして、先ほど言いましたような、ちょっと手をかけても

らって違った雰囲気にするのもいいし、それから思い切りほかのものにすると。仮に言いますと、ばんどり太鼓も別の建物で練習しております。

今後、村でも博物館とか埋蔵文化財等を陳列するような建物も要るだろうし、そしてまた非常時に備えるいろんな備品、あるいはまた非常食等の保管、その他いろんなことも、やがてゆとりが出てくれば、そういうような施設等にもねらわれやすい場所ではないかなということも考えます。

ただ10年もたてば、小学校、今は立派なものにさせていただけるわけですが、どんどん空き教室が出てくるだろうということも考えられます。そういったときには、村でもいろいろと多目的に利用するということもできてきますので、これらは教育委員会等で今後話しして、ただ一部の先生がちょっと観察に使っていると。特別関心あるような子どもたちが関心を持って見ているという程度なので、特にどうしても残してくれというような固執するようなことではないのでありまして、今後ゆとりが出てきたときに、あそこをどういうふうにご利用していくかということは、今後の楽しみのある課題ではないかというふうにも思っております。

1点目は以上にさせていただきます。

2点目の質問であります。私も全く同感であります。「温故知新、以って師たるべし」というのは、論語の中の、そしてどこでもよく使われる言葉であります。過去をずっと振り返り、先人の知恵やいろんな恩恵を尊敬し学びながら、現在ある自分たちを考え、そしてよりよく進んでいくためにどうあるべきかということを考えていく。そういった中で、特にふるさとにおいては、郷土のいろんな生い立ちや歴史、史跡名所についていろんな機会をとらえて、この後を担ってくれる子どもたちに伝承していくという責任が大人にはあるというふうにも考えております。

現在、図書館やその他の関係で、図書館では2年前からふるさとのいろんなことに関する講演会をやっております。1回目は、無量寺で「ばんどり騒動」をやりました。村外の人も来ていただきまして、100人ぐらい集まりました。昨年は中越大地震、ちょうどことしは安政の大地震から150年になります。これを中心に立山町の砂防ダムの高野という人を招きまして、講演会を図書館で開きました。

あしたは、今はちょっと名前が変わりましたが、県のいきいき財団が中心で舟橋会館で村外の人が50名を超したという申し込みがあったそうで、村内は申し込みがないので、20人か30人来ていただければにぎやかになるなということで、「ばんどり騒動」

を中心とした話を前の県立図書館の副館長、浦田先生にお願いすることになっております。その先40分ほど前座ということになるんでしょうが、村長さんにお願いできないかという話でしたが、村長さんはちょっと都合が悪いので、私が話をするようになっております。そのほかこれで2回やりましたが、村内の史跡名所というものを、はっきりしていませんが、少しずつ回るような機会を子どもたちにも持っております。

それから、総合学習において、郷土の歴史等を立山町の会館で立山区域の子どもたちの小学校、中学校の作品を集めて、そしてまたその出たものを図書館でも展示しております。非常に詳しく調べてくれておりまして、金賞も何度も取ったりしております。

そういったふうに、それなりには始めているわけですが、実際、このような小さな村でもたくさんの歴史がもちろんあるわけであり、史跡名所もある。

それで私、かつて島根のほうへ行ったときに、その中学校、高校では、八俣の大蛇伝説にまつわるすごくすばらしい発表をずっと長い間、部活動で次から次へ部員が同じことをずっとやっていくんですが、国内のだれが来ても、それを見事に自慢して見せられるような郷土芸能として伝えておりました。

それから、昨年ここでも何人も行かれた方がおられると思いますが、立山区域の地域ぐるみの発表のときに、子ども歌舞伎、あれは芦峯小の区域でしたか。明智光秀が織田信長を本能寺で殺してしまった。それから7日後に明智光秀も秀吉に殺されてしまうわけですが、その明智光秀がうちへ帰ろうとしたら、うちから完全にはじき出されてしまう、そのあたりのかなり悲しいような話を非常に見事に発表しまして、これは郷土の歴史ではないわけですが、しかしそういったふういろんなことを自分たちのふるさとに持つということはいいことだなということで、今議長をやっておられる竹島議員ともそのことも話ししたりしておりました。

そういったことで、私としては、舟橋発祥のこととか、あるいはばんどり騒動のこととか、その他いろんな、どれでもいいですから、仮に言いますと、舟橋キッズの劇団とか、あるいはその他同好会等でひとつできたらいいなと、そういったようなことを考えたりしているわけですが、実際のところ、竹内の天神堂の古墳、これは前方後方墳で富山県で6つあるそうですが、東部にはたった1個しかなくて、舟橋のこの古墳は非常に遺存状態、要するに傷つかずで保存率がいいということで高く評価されております。

なお昨年末に図書館でやりました古事記、日本書紀という本にも、この武内宿禰のこ

とが、たった1ページですが、書いてありました。そして、この武内宿禰は、何しろ二百何十年生きておることになっておるわけですが、実際5代の天皇に仕えている。しかし、この5代の天皇もあまりにも年数が長くなり過ぎて、計算上合わないの、やはり歴史的には古事記、日本書紀は問題があると言われるようなところもあるんですが、いろんな解説によりますと、これは世襲でこの名前をもらって、代々行ったのではないかと。それで景行天皇のときに越中の国に来て、竹内にとどまって、いろいろ調査され、そしてその息子のうちの一人の藤津という人を竹内に残し、竹内の開発並びにいろんな農業を伝え、特に稲作というものがここと砺波のほうで発祥の地と言われたりするのもその一つであります。それでこの藤津が亡くなったら、村民は大変悲しんで藤津神社をつくったと。そしてやがて古墳をつくったと伝えられているわけで、それが現在の竹内のあのお宮さんではないかというふうに十分とれるわけであります。こういったことを、あそこにだれが来てわかるように何かしていくというようなことも大事なのではないかなと。

それと仏生寺城、これが一番もったいない話だなといつも思うんですが、明治時代まではしっかりと城跡、そして小高い丘というか山になっていた城跡が、富山地方鉄道が通るためにあっという間に数カ月ですべて移されてしまって、跡形もなく、現在どこがその跡なのかということすらわからない。舟橋は、初めは竹内のほうが中心でしたが、その後は仏生寺が中心地でありまして、舟橋小学校とか役場も旧東洋産業のあそこの仏生寺踏切の、昔の道格さん、あるいは榊原さんがつくっておられる田んぼにあったわけで、実際のところ、寺田駅ではなくて、舟橋が立山と宇奈月に行く分岐点の駅となる予定で進み始めたが、いろんな反対もあってそれが実現しなかったと。

あるいはまた水の便が非常によくて、中新川地区の米俵等の積み出しがすべて船で行われるので、いろんな方法で舟橋に集められて、水橋のほうへ船で運んだということで、舟橋はこのあたりの中心地であったということでもあります。ほかに無量寺あたりの歴史、これも本当にすごい歴史があり、舟橋村で唯一の県の指定文化財、阿弥陀如来像、立像も非常に値打ちがあるということで、県東部の図書館員の研修会を無量寺でやったこともあります。

ちょっと長くなりましたが、いろんなことを今後申していかなければならないわけですが、すけれども、昭和3年に村誌の第1号ができ、昭和38年に村誌第2号ができて、その後できておりません。昭和40何年かに、国重のほうで国重の歴史をまとめたものも残

っております。そのほか、それぞれ区域でいろんな歴史が伝えられていると思います。そういったことで、何かの記念に5年ぐらいの準備期間を設けて、村誌の第3号を出すべきではないかなというふうに考えているわけであります。

そういったことで、議員の質問というより、今後私たちが考えていかなければならぬことを示唆されたものというふうに考えておりますので、今後ともご理解をいただき、どんどん整備し、また子どもたちに伝えていきたいなというふうに考えております。

以上であります。